

事務事業名		水道事業予算、決算調製事務				☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業	
政策体系	政策名	01 潤いに満ちた快適な都市環境の創造				事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和29 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
	施策名	02 良好な生活空間の創造					
	基本事業名	02 上水道・簡易水道の整備					
根拠法令		地方公営企業法				予算科目 会計 款 項 目 事業 水道 01 01 04	
所属	部課名	水道事業所					
	課長名	中井 吉隆					
	係 名	庶務係	電話	0192-27-3111			
	担当者	古内 弘一	内線	172			
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 水道事業の予算(①業務の予定量②収益的収入及び支出の予定額③資本的収入及び支出の予定額④企業債予定額⑤予算に関する説明書)及び決算(①決算報告書②損益計算書③剰余金計算書または欠損金計算書④剰余金処分計算書または欠損金処分計算書⑤貸借対照表⑥決算付属書類)の調製を行い、経営状態を正確に把握し、健全な事業運営を図る。 事業費は、企業会計システムに係る賃借料及び保守委託料、予算書及び決算書の印刷製本費等である。						全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量 (千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計 (A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標					
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 前年度の決算書及び次年度の当初予算書を調製した。なお、決算書については、地方公営企業会計基準の見直しに沿った項目の追記や修正を行った。 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度に同じ。	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 名称 単位 ア 水道事業会計決算書(前年度) 頁 イ 水道事業会計予算書(次年度当初) 頁 ウ 水道事業会計予算書(当年度補正) 頁	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 名称 単位 カ 総収益 千円 キ 総費用 千円 ク 資本的支出額 千円			
			② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 水道事業会計	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 名称 単位 サ 供給単価 円 シ 給水原価 円 ス	
					③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 経営状態を把握し今後の経営指標とすることで、水道事業会計の健全性が維持される。

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)
投入量	事業費 財源内訳	単位	年度						
		千 円							
		千 円							
		千 円							
		千 円							
		千 円		1,195	834	504	1,022	1,552	1,200
		千 円		1,195	834	504	1,022	1,552	1,200
		人		1	1	1	1	1	1
		時 間		1,000	900	900	900	900	900
		千 円		4,000	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600
		千 円		5,195	4,434	4,104	4,622	5,152	4,800
		頁		49	49	51	57	57	57
		頁		28	26	29	29	31	29
		頁		16	0	0	0	18	0
		千円		507,589	552,844	627,491	688,022	708,631	695,535
		千円		522,233	535,387	545,473	536,951	539,761	670,296
		千円		313,203	459,901	462,440	628,615	760,788	1,771,013
		円		155.65	168.67	194.88	203.87	204.13	211.70
		円		207.72	186.00	183.28	176.63	177.52	180.00

事務事業ID	0316	事務事業名	水道事業予算、決算調製事務
--------	------	-------	---------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
昭和29年4月、水道事業の開始による。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
平成23年4月には改正資本制度が成立し、平成24年1月には、会計基準等の改正が行われた。
資本制度の見直しは、平成24年度の事業年度から、会計基準等の見直しは、早期適用を除き、平成26年度の事業年度の予算及び決算から適用されている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
特になし。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 予算、決算を調製し水道事業会計を把握することにより健全な事業運営が図られ、その結果、市民に安全で安定した飲料水を供給することにより、快適な都市環境の向上が図られる。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 水道事業は公営企業であり、原則、市町村が事業を行う必要がある。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 対象は水道事業会計であり、意図を含め妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】⇒	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 将来の財政計画策定等に活用しており、成果は現れている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 地方公営企業法に定められており、廃止・休止はできない。
効率性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？ 現状では他の手段は考えられない。
	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 電算システム等の費用であり、これ以上の削減余地はない。
公平性 評価	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 現状ではこれ以上の人件費の削減は難しい。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 最終的には水道料金に転嫁されている。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 水道事業会計予算、決算は、会計制度の見直しにも適切に対応して調製しており、決算等は経営指標として健全な事業運営に資するよう努めている。																					
☒ ① 目的妥当性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
☒ ② 有効性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
☒ ③ 効率性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
☒ ④ 公平性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 今後とも健全な水道事業会計を維持する。		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 今後の水道事業の健全経営を確保し、もって安定的かつ持続的な水道水の供給を図るため、再度の料金改定を検討する。(平成24年度末に料金改定を行い、平成25年7月徴収分から新料金適用)																							

4 事務事業の2次評価結果

	(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	水道事業所長	中井 吉隆

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

- ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)
- ☐ 記述不足でわかりにくい
☐ 一部記述不足のところがある
☒ 記述は十分なされている
- ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)
- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- | | |
|---|---|
| ☒ ① 目的妥当性 | ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり |
| ☒ ② 有効性 | ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり |
| ☒ ③ 効率性 | ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり |
| ☒ ④ 公平性 | ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり |
-

(3) 評価結果の根拠と理由

適切な事務執行がなされている。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)
(上記方向性に対する具体的な内容)
水道事業の健全経営を確保し、安定的かつ持続的な水道水の供給を図るため、今後とも適切な財政運営に努める。
-

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項